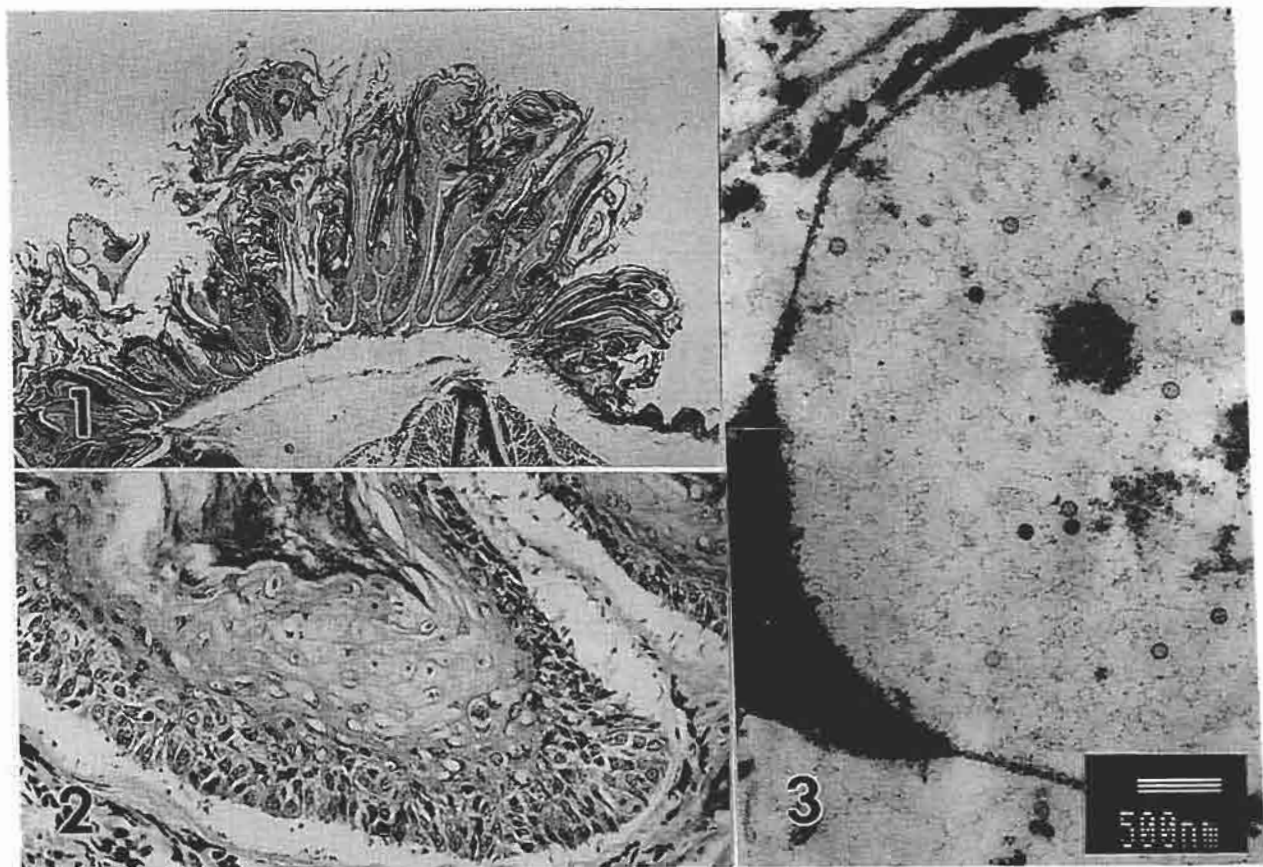


トカゲの皮膚腫瘤

日本大学生物資源科学部獣医病理学研究室 第38回獣医病理学研修会標本No.708



動物：ミドリカナヘビ(*Lacerta viridis*), 全長26.5cm, 体長10cm, 体重20g。

臨床的事項：国内のペットショップに輸入されたものであるが, 入手時に既に死亡していたため臨床経過などは不明。

肉眼的所見：頸部から背部および尾根部の体表に10×8×3mmから3×3×2mm大の黒色腫瘤が6個みられ, 断面はカリフラワー状を呈していた。

組織学的所見：表皮は不規則かつ著明な乳頭状増殖を示し, 不全角化を伴う角質層の肥厚, 顆粒細胞の膨化および腫大, 釘脚の延長, 真皮毛細血管の拡張がみられた(写真1, H E染色, ×13)。角質層にはメラニンが認められ, また真皮層に近い増殖部(谷間の部分)では, 中間層から角質層に向かって明るく空胞状に腫大した細胞が増殖していた。核内には好酸性の封入体様物がみられた(写真2, H E染色, ×260)。

電子顕微鏡的所見：空胞状の細胞の核内に直径約

100nmのウイルス様粒子の散在が観察された(写真3, ×20000)。

診断：核内封入体のみられた皮膚乳頭腫(Cutaneous Papilloma)。RaynaudとAdrian(1976)によると, カナヘビの乳頭腫はその生殖活動において雄が雌の尾根部に咬みついたり, 雄同士で頸部を咬むことに関係があるとしている。また, ミドリカナヘビの乳頭腫にパポバウイルス, ヘルペスウイルス, レオウイルスにそれぞれ類似するウイルスがみられたと報告している。アオウミガメの線維性乳頭腫では, 特異的な病原体が発見されていないが, 時折, 電子密度の高い中心部を持つ155~190nmの粒子が基底層の空胞内にみられたと報告されている。今回みられたウイルス様粒子に関しては, 爬虫類における乳頭腫ウイルスの実体が未だに不明であり, パピローマウイルスに比較して大きさが2倍近いため, 本乳頭腫を引き起こしたウイルスであるか否かは断定できない。